

## 薬局で自己採血してHbA1cを測定 糖尿病プロジェクトを徳島県でも

「糖尿病診断アクセス革命！徳島」プロジェクト

東京・足立区でスタートした、薬局での指先微量自己採血によるHbA1c測定プロジェクト「糖尿病診断アクセス革命」が、徳島県でも始まった。徳島文理大学薬学部の中田素生教授と参加薬局の薬剤師都築和栄氏、角本則子氏、そして筑波大学糖尿病内科准教授の矢作直也氏に聞いた。

「糖尿病診断アクセス革命」（代表・矢作直也氏）は、薬局で「指先微量自己採血によるHbA1c測定」を行い、未発見の糖尿病患者と予備群を医療機関受診につなげるプロジェクト。2010年10月から東京・足立区の10薬局でスタートし、2年間に996人が検査を受け、3割近くの人に受診を勧奨した。その実績を踏まえ、徳島県で、2012年10月29日から10薬局で「糖尿病診断アクセス革命！徳島」が始まった。

### ——本プロジェクトを徳島に招致した経緯は

**中田素生徳島文理大学薬学部教授** 以前から薬局の地域医療での潜在能力に着目していたので、このプロジェクトを知った時、ぜひ糖尿病死日本一の徳島でもと、矢作先生にお願いしました。実現までには様々な問題があり、最大の壁は医師法や薬事法、臨床検査技師法等の法律で、保健所の許可が出るまでに2カ月かかりました。HbA1c検査機器は筑波大からの貸与で、試薬などの経費もプロジェクトから出ています。筑波大の倫理委員会の指示で、臨床研究初級編のeラーニングの受講と修了が課せられましたが全員修了しました。

### ——出足の反応はいかがですか

**中田氏** NHKや徳島新聞ほかが大きく取り上げてくれたおかげで、12月末までに10薬局に521人が検査に訪れ、HbA1c (NGSP) 6.5以上36人 (6.9%)、6.4から6.0まで80人 (15.4%)、計116人 (22.3%) に受診を勧奨しました。驚くべき来訪者数ですが、糖尿病死日本一と知っていて関心が非常に強かったからでしょう。

### ——慣れるまで大変だったのでは

**角本則子氏 (スマイル調剤薬局)** 初めはご自分で針を刺して採血していただく説明もうまくできず、こちらまで不安になってしまうこともありましたが、でも、よく揉んで温めるとうまく採血できるとか、メーリングリストなどで他の薬剤師もアドバイスをくれるし、いまは安心して対応できています。検査に来られる皆さんは糖尿病への関心が高く、「HbA1c」もよくご存じなので驚きました。「薬局で気軽に測れるんだ」と喜んでくださるのがうれしいですね。ご家族でみえて10代のお子さんも測られたのですが、糖尿病予防のために定期的に測っていかれるといいなと思いました。

### ——どんな手応えを感じていらっしゃいますか

**都築和栄氏 (ツヅキ調剤薬局)** 病院への受診をお勧めした方が、「昨日病院に行ってきたよ」と言ってこられたのですが、このプロジェクトがきっかけで気持ちのふんぎりがついたそうです。薬局ならと気軽に検査を受ける気になり、それが受診につながったというわけです。皆さん頭の中では糖尿病に注意しなければと思っていますが、結局は何もしていない方も多いと思われます。薬局も今までは薬以外の話はあまりしませんでした。こんな検査を通じてトータルな健康相談ができるきっかけになると思います。特にHbA1cのデータを見ながらお話できるのが画期的だと思います。これこそ私がやってみたかったことです。それが普通にできるようになれば、薬剤師がもっと地域の皆様の健康に貢献できるようになるのではないかと考えています。

### ——今後プロジェクトをどう発展させたいとお考えですか

**矢作直也筑波大学准教授** 本プロジェクトを開始して約2年、徳島での経験からもはっきりしてきたことは、地域薬局での糖尿病スクリーニングを医療連携の中で行うことで、糖尿病の早期発見・治療開始に貢献できるということです。どうか「薬局で検査」という“部分”だけ捉えるのではなく、医療機関と連携した「地域におけるチーム医療」なのだという“全体像”をしっかりとご理解ください。その上で、制度面に関し、どのような仕組みが最もスマートなのか、これからさらに関係各方面と調整を進めていけたらと思っています。